

予防接種を受ける前の諸注意

予防接種を受けることができないお子さん（接種不適合者）

- ① 明らかに発熱があるお子さん（接種会場での体温が37.5℃を超える場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- ③ その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーショックを起こしたことがあるお子さん（通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、ショック状態になるような激しい全身反応のことです。）
- ④ 予防接種を受けようとする病気に既にかかったことがあるお子さん、又は、現在かかっているお子さん
- ⑤ その他医師が不適当な状態と判断した場合

※上の①～④に当てはまらなくても医師が接種不適合と判断した時は、予防接種を受けることはできません。

予防接種に際し注意を要するお子さん（接種要注意者）

次のいずれかに該当すると思われる保護者は、かかりつけ医がいる場合には必ず前もって診ていただき、その医師のところで接種を受けるか、あるいは診断書・意見書をもらってから接種を受けてください。

- ① 心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気や发育障害などで治療を受けているお子さん
- ② カゼなどのひきはじめと思われる人（体の状態がはっきりするまでなるべくやめておきましょう。）
- ③ 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子さん
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、熱はなかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん
- ⑥ ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分で、抗生物質、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

接種前の一般的な注意事項

- ① 前日は朝からお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認してください。
体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種をするかどうか判断するようにしましょう。
- ② 予診票は、お子さんを診て接種をする大切な情報です。保護者の方が責任をもって記入しましょう。
- ③ 予防接種を受けるお子さんの日ごろの健康状態をよく知っている保護者の方が連れていきましょう。

接種後の一般的な注意事項

- ① 予防接種を受けたあと30分以内に、急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡がとれるようにして、お子さんの様子を観察しましょう。
- ② 接種後は、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活ができますが、激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

副反応について

ワクチンの種類によっても異なりますが、発熱、接種局所の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）、発疹などが比較的高い頻度（数%から数十%）で認められます。通常、数日以内に自然に治るので心配の必要はありません。予防接種を受けたあと、接種局所のひどいはれ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診察を受けてください。ワクチンの種類によっては、極めてまれ（百万から数百万人に1人程度）に脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることもあります。

このような場合に、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。